

# 3.11 from KANSAI

## 震災復興応援イベント

参加  
無料

# 3.11 from KANSAI 2015

## ～これから、わたしにできること

2015年3月11日(水) 13時  
～17時50分(12時半受付)

会場: 梅田スカイビル  
タワーイースト36階 スカイルーム  
定員: 100人



写真「311 from KANSAI 2014」の様子

### ●3.11 from KANSAI のテーマ

- ①「おたがいさま」 阪神・淡路大震災を知る関西。困ったときはおたがいさま。
- ②「忘れない」 震災から4年。復興活動はこれからも続く。
- ③「関西でできること」 関西だからこそできることを考える。

2015年は、これまでとスタイルを変えて、「これから、わたしにできること」をテーマに東日本大震災の復興を考える集いを開催します。今年、3.11のことをともに考えてくださる方々と一緒に、2015年3月11日を迎え、「これから、わたしにできること」をそれぞれの立場で考えたいと思います。これまでに「3.11 from KANSAI」に関わってくださった方も、これから新しく関わる方も、ぜひご参集ください。

### ●プログラム

- 13時00分 開会 ※法人格略
- ◎実行委員長挨拶: 早瀬 昇さん(大阪ボランティア協会)
  - ◎総合司会: 下間 都代子さん(遠野まごころネット)
- 13時10分 **第1部 関西のみなさんへ伝えたい～3.11の教訓とは**
- ゲスト: 田口 ひろみさん(山元町共同作業所「工房地球村」施設長/山元町社会福祉協議会職員)  
～災害時、地域で暮らす障害者のいのちと暮らしをどう維持できるか?
  - ◎ナビゲーター: 上月 正洋さん(トゥギャザー 専務理事)
- 14時46分 黙とう
- 14時50分 非常食の試食体験 (提供: 積水ハウス)
- 15時15分 **第2部 復興5年目に向けて～行って応援・買って応援**
- ゲスト: 大塚 友子さん(みらいサポート石巻 復興支援員)  
～「防災まちあるき」～復興応援ツアーはいかがですか?
  - ゲスト: 大竹 由布子さん(女子の暮らしの研究所 研究員/蒔絵師)  
～“伝統”と“かわいい”をコラボしたオリジナル商品「omoi no mi」をプロデュース
  - ゲスト: 川井 徳子さん(ソーシャル・サイエンス・ラボ 専務理事/ノブレスグループ 代表)  
～関西と東北をつなぐ経済支援の取組み
  - ◎ナビゲーター: 赤澤 清孝さん(ユースビジョン 代表)
  - ◎コメントーター: 田村 太郎さん(復興庁・復興推進参与/ダイバーシティ研究所 代表理事)
- 17時50分 閉会

### 【主催】3.11 from KANSAI 実行委員会

- ◎実行委員会構成団体: (福)大阪市社会福祉協議会/近畿労働金庫/(般財)ダイバーシティ研究所/(特)遠野まごころネット/(特)ユースビジョン/(福)大阪ボランティア協会(事務局)
- ◎運営協力団体: おおさか災害支援ネットワーク/(認特)トゥギャザー/(株)PRリンク

### 【申込み・問合せ先(事務局)】

(福)大阪ボランティア協会 (担当: 永井美佳)  
〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-2-20 2F 市民活動スクエア「CANVAS谷町」  
TEL:06-6809-4901 FAX:06-6809-4902 メール:office@osakavol.org

- ◎お申込みは、左記「こくちーズ」URLからどうぞ <http://kokucheese.com/event/index/266864/>
- ◎公式フェイスブックを Check it out ! <https://www.facebook.com/311kansai>

**第1部 関西のみなさんへ伝えたい ～3.11の教訓とは**

災害時、地域で暮らす障害者のいのちとくらしをどう維持できるか？



●ゲスト:田口 ひろみさん

(山元町共同作業所「工房地球村」施設長／社会福祉法人山元町社会福祉協議会職員)  
宮城県柴田町生まれ。1991年仙台市から自然豊かな山元町へ転居。3児の子育て・専業主婦を10年間経験。1998年開所した町設の精神障害者通所授産施設山元町共同作業所「工房地球村」指導員になる。2008年から工房地球村施設長となり、2011年東日本大震災に遭う。障害のある人もない人も共に素敵に生き、はたらける町に再生することを目指し、2014年8月、当事者や家族、ボランティアと共に地球村アクティビティーズを設立。共同代表となる。



◎ナビゲーター:上月 正洋さん

(認定NPO法人トウギャザー 専務理事)  
1984年日本福祉大学経済学部卒業後、(社福)いずみ野福祉会に就職。種々のボランティアを含めて障害者福祉に携わる。2001年よりNPO法人トウギャザーにて大阪をはじめとする全国の障害者施設を対象にものづくりや販売等の中間支援を行う。東日本大震災後は交流のあった障害者施設を中心に訪問。その後も被災地の施設で製造した商品を販売することで支援を続ける。3.11 from Kansaiにも運営協力団体として実行委員会に参加。

**第2部 復興5年目に向けて ～行って応援・買って応援**

復興応援ツアー「防災まちあるき」はいかがですか？



●ゲスト:大塚 友子さん

(一般社団法人みらいサポート石巻 復興支援員)  
兵庫県神戸市生まれ。大学卒業後、商社勤務を経て国際協力NGOに就職し、海外での村落開発や災害救援活動に従事。東日本大震災後は同NGOのスタッフとして東北支援に参加したが、地域により近い立場で復興に関わるため、2012年3月に石巻へ移住。石巻市中心市街地の復興まちづくりを推進するまちづくり協議会の事務局業務や防災事業に取り組んでいる。



◎ナビゲーター:赤澤 清孝さん

(NPO法人ユースビジョン 代表)  
1996年、きょうと学生ボランティアセンター(現ユースビジョン)設立。東日本大震災後、NPOの専門性を活かして被災者を支援する「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)」、全国の大学と連携し、岩手県に学生ボランティアを送り出す「いわてGINGA-NETプロジェクト」で事務局長を務めた。2012年からは、宮城県石巻市を拠点に、三陸沿岸で復興・まちづくりに取り組む起業家の支援を続けている。

“伝統”と“かわいい”をコラボしたオリジナル商品「omoi no mi」をプロデュース



●ゲスト:大竹 由布子さん

(女子の暮らしの研究所 研究員／蒔絵師)  
福島県会津若松市出身。高校を卒業後、家業の漆工房を継ぐべく、会津漆器技術後継者訓練校蒔絵コースに入学。会津の伝統工芸品「会津漆器」の道に進むことを決意する。震災後、福島に留まることに悩みながらも、家族や漆器を見つめ直し、福島から発信していく「女子の暮らしの研究所」で活動を始める。会津漆器の技法を使ったアクセサリー“omoi no mi”をプロデュース。東京、福島の百貨店でグループ展なども開催している。オンラインストアはこちら↓  
<http://store.shopping.yahoo.co.jp/girlslifelabo/>



◎コメンテーター:田村 太郎さん

(復興庁・復興推進参与／一般財団法人 ダイバーシティ研究所・代表理事)  
兵庫県生まれ。阪神・淡路大震災では外国人への情報提供や、「神戸復興塾」事務局長としてキーパーソンのネットワークづくりに携わった。2007年にダイバーシティ研究所を設立。人の多様性に配慮した組織や地域づくりに取り組むほか、東日本大震災では内閣官房に設立された「震災ボランティア連携室」の企画官に就任。現在も復興庁参与として、官民両方の立場から東北の復興に参画している。共著に『企業と震災』『つないで支える』など。

関西と東北をつなぐ経済支援の取組み



●ゲスト:川井 徳子さん

(公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ 専務理事／ノブレスグループ 代表)  
被災者のみならず被災事業者の仕事興しを関西から支援する活動を行う。2013年12月から約3カ月間、東北グルメを集めた大型イートインイベントを西梅田スクエアで開催。また、2014年6月からは継続した販路創成支援拠点として、「東北わくわくマルシェ・梅田」を開設。新たな商材を模索する関西の事業者と、失われた販路の創成を求める東北の生産者・事業者とのマッチング拠点を運営している。

当日は、ゲストにちなんだ「買って応援」の商品を会場にご用意します。ぜひ、お買い求めください。

- ・工房地球村の「いちごものがたり」シリーズ
- ・みらいサポート石巻のおすすめ書籍
- ・女子の暮らしの研究所プロデュースのアクセサリー
- ・東北わくわくマルシェが選んだ人気商品 など

みなさまのご参加を、お待ちしております！